

研究室だより

人事

石坂唯助手、三月三十一日をもって退職。

訃報

昭和四十四年四月より平成三年三月まで本学に奉職され、学内では本学図書館長を、学外では国語学会（現・日本語学会）評議委員・学術審議会専門委員等を歴任された福島邦道先生が、平成二十一年五月十九日に八十九歳でお亡くなりになりました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

特別講演会開催

平成二十一年度 第一回国文学科特別講演会

平成二十一年十一月十日（火）

午前一時～二時三十分 香雪記念資料館 1階大教室

林洋子ひとり語り公演 — 宮沢賢治の詩と童話 —

林洋子先生（クラムボンの会主宰）

平成二十一年度 第二回国文学科特別講演会

平成二十一年十一月十四日（土）

午前十時四十五分～午前十二時十分

システムでとらえる日本語の敬語

菊地康人先生（東京大学教授）

大学院研究会開催

平成二十一年度後期大学院文学研究科国文学専攻研究会

平成二十一年十二月五日（土）

午後二時～午後四時五十分 1館11教室

宮沢賢治と女性 — 作品にあらわれる女性像を中心に —

博士前期課程二年 田嶋 彩香

向田邦子の投影としてのさと子をめぐって

博士前期課程二年 山口みなみ

『紫式部集』研究の現在 — 実践女子大学本をめぐる諸

問題 — 教授 横井 孝

修士論文執筆予定者二名の研究発表に加え、教員側からは横井孝教授の講演が行われた。大学院生の発表はともに近代・現代文学に関するもので、修士論文の基礎研究として行われた。活発な質疑応答によって、乗り越えるべき課題もみつかり、実りの多い発表であった。横井教授の講演は、源氏物語研究の最前線の内容をわかりやすく解説する

もので、きわめて興味深い内容であった。

〔編集後記〕

大学院生が定員を充足しないことが長く続いている。多くの大学が同じような悩みを抱えているようだ。いつも不思議に思うのだが、大学院は学部比べ、開講コマ数が圧倒的に少ないうえ、取得すべき単位もきわめて少ない。それなのに、なぜ授業料は学部と変わらないのであろうか。より高度な学問を授け、個別指導も手間がかかるからかもしれないが、院生の数を増やすために、授業料を半額にするくらいの措置は取れないものだろうか。

〔影山輝國〕

平成二十一年度後期号にあたる第七十七号をお届けします。先日、教員採用試験に合格した修了生が研究室に来てくれました。澁刺とした笑顔で、来年度からの仕事が楽しみでしかたない、という印象を受けました。折からの不況のため、本学の就職状況もそれ以前に比べれば望ましいものではありませんが、彼女のように、自分のやりたいことが明確で、それに向けて努力すれば、報われることがあるのだ、と思われました。

〔植田 麦〕